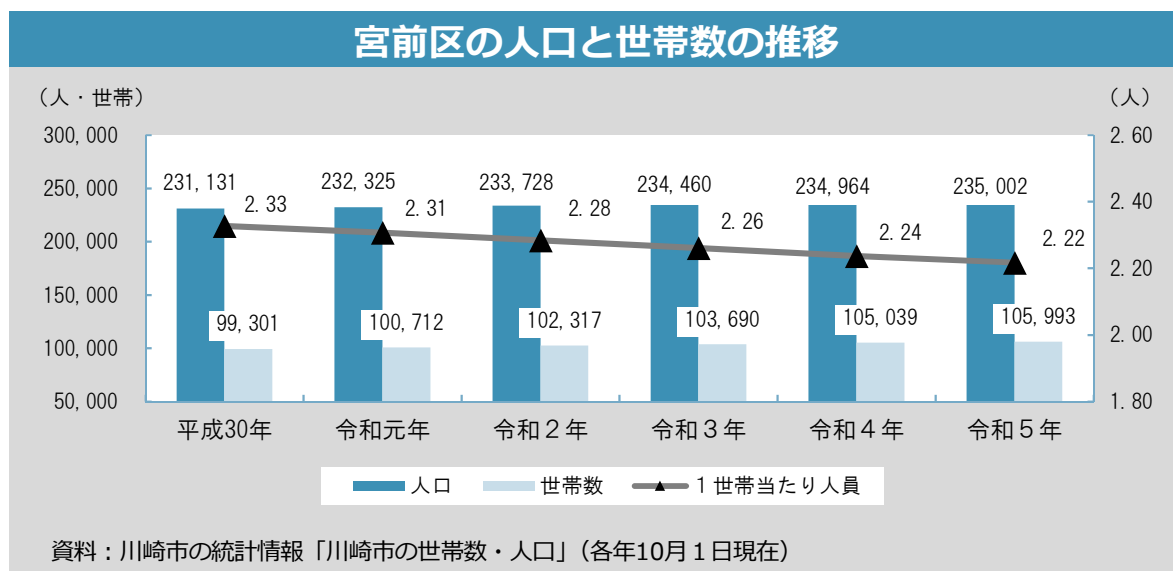


宮前区の地域福祉を取り巻く現状 ～統計データからわかること～

1 人口と世帯数

1) 宮前区の人口と世帯数の推移

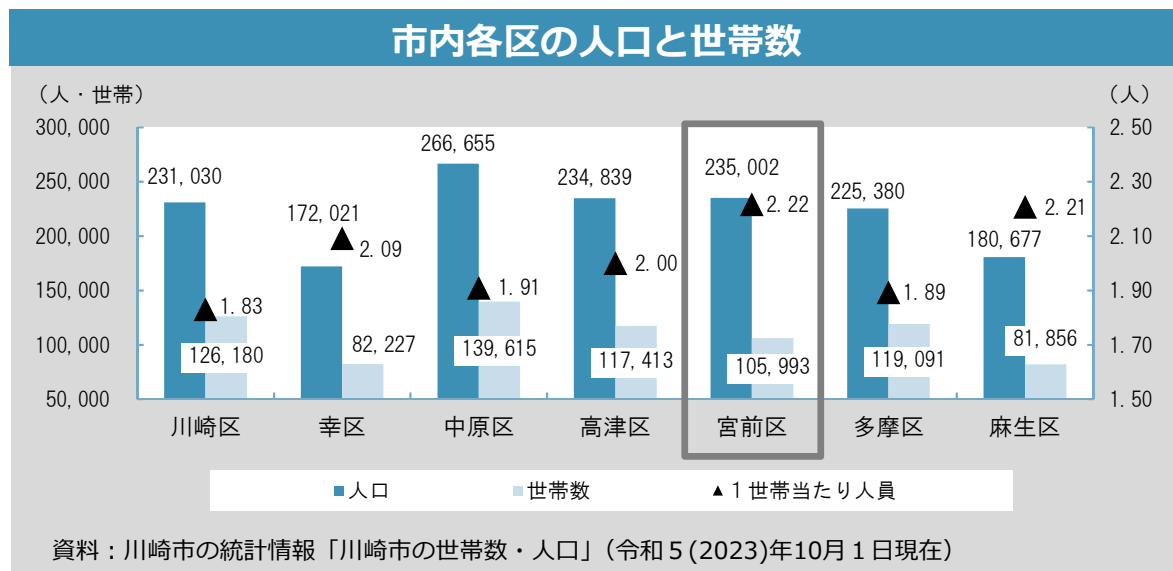
宮前区の人口は、令和5（2023）年10月1日現在で235,002人となっています。
また、1世帯当たり人員は減少傾向にあり、令和5（2023）年10月1日現在で2.22人となっています。



2) 市内各区別の人口と世帯数

川崎市の人口は、令和5（2023）年10月1日現在で1,545,604人、世帯数は772,375世帯です。

宮前区の人口は7区のうち2番目に多く、世帯数は5番目です。1世帯当たり人員は、7区のうち最も多くなっています。

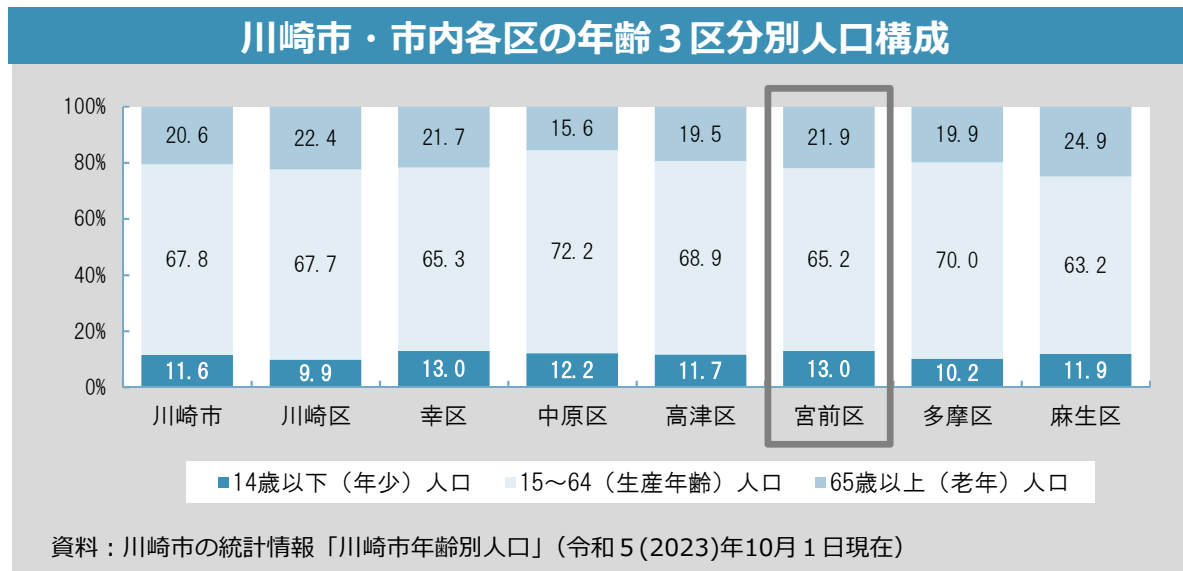


2 人口構成と人口の推移

1) 市と各区の年齢3区分別人口構成

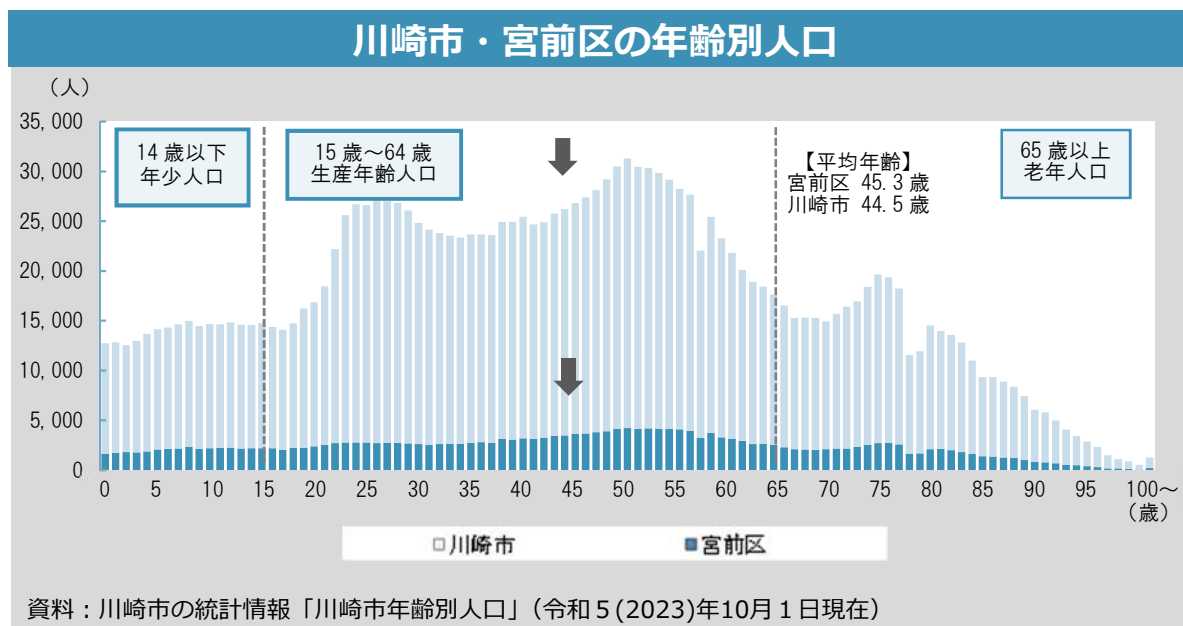
宮前区は、幸区と並んで市内で最も14歳以下人口の割合が高い区です。

また、65歳以上人口の割合は、平成27(2015)年に初めて20%を超え、令和5(2023)年現在は21.9%と、7区のうち3番目に高くなっています。



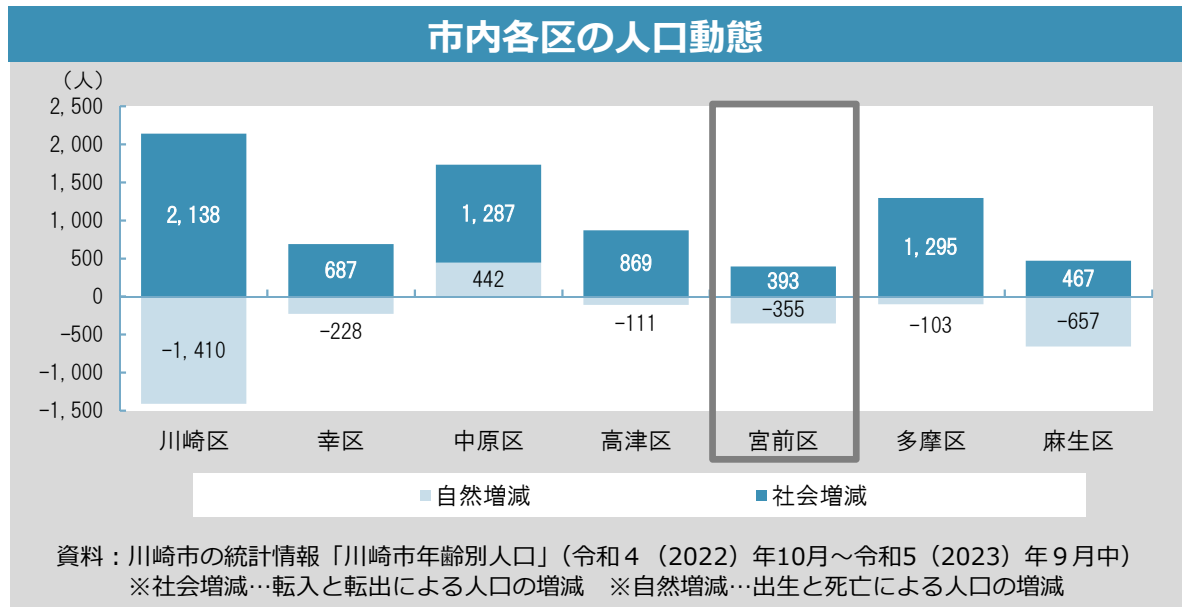
2) 宮前区の年齢別人口

宮前区の年少人口（14歳以下）は30,451人、生産年齢人口（15歳～64歳）は153,149人、老年人口（65歳以上）は51,402人となっており、平均年齢は市全体よりやや高く45.3歳となっています。



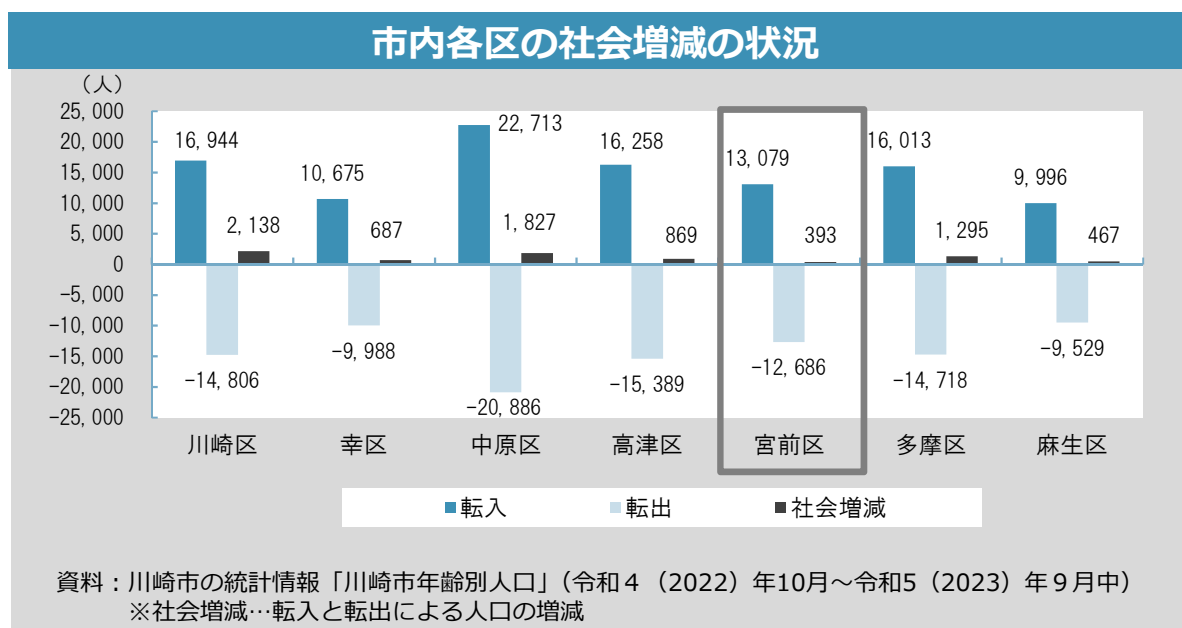
3) 市内各区の人口動態

令和4（2022）年10月～令和5（2023）年9月中の人口動態は38人増で、転入が転出より多いことによる社会増加が、出生が死亡より少ないことによる自然減少を上回っています。



4) 転出入の状況（社会増減）

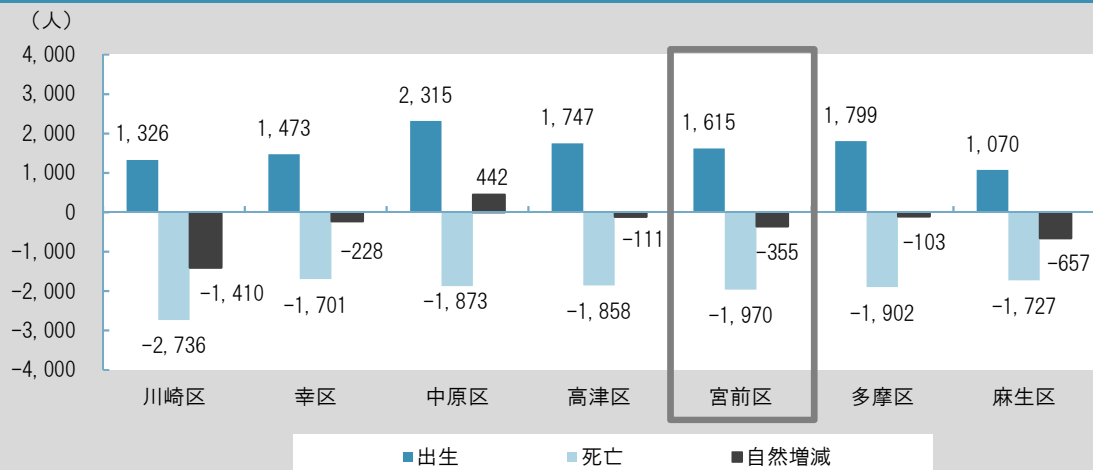
令和4（2022）年10月～令和5（2023）年9月中の転出入の状況をみると、1年間で13,079人の転入、12,686人の転出があり、転入が転出を393人上回る社会増加となっています。社会増加の人数は、7区のうち最も少なくなっています。



5) 出生・死亡の状況（自然増減）

令和4（2022）年10月～令和5（2023）年9月中の出生・死亡の状況をみると、1年間の出生数は1,615人で、死亡数は1,970人となっており、出生数が死亡数を355人下回る自然減少となっています。自然減少の人数は市内で3番目に多くなっています。

市内各区の自然増減の状況

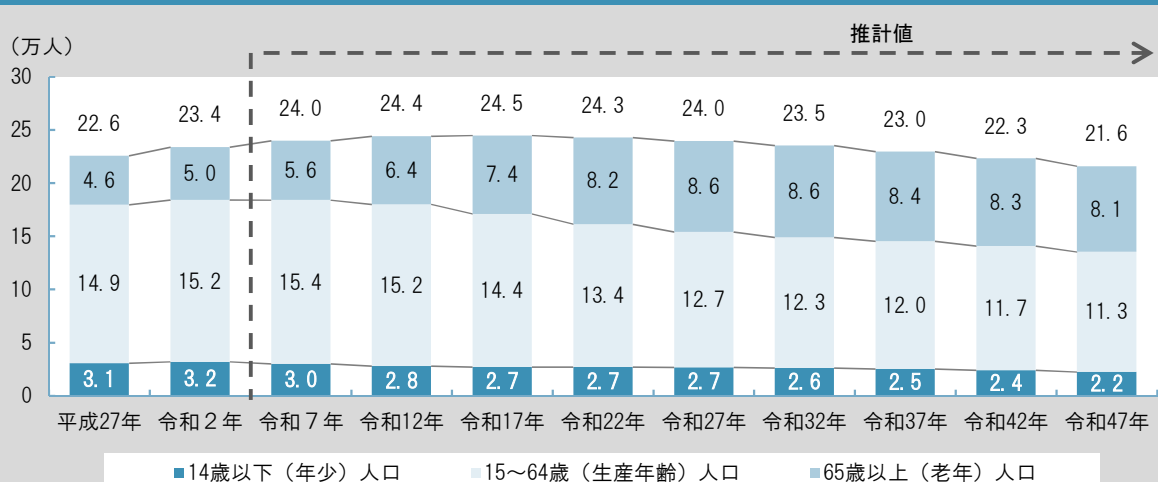


資料：川崎市の統計情報「川崎市年齢別人口」（令和4（2022）年10月～令和5（2023）年9月中）
※自然増減…出生と死亡による人口の増減

6) 宮前区の人口推計と将来人口推計

令和4（2022）年の将来人口推計によると、宮前区の人口は令和17（2035）年にピークを迎えると推計されています。15～64歳の生産年齢人口は令和7（2025）年にピークを迎えますが、65歳以上人口は令和32（2050）年まで増加が続くと推計されています。

宮前区の人口推計と将来人口推計



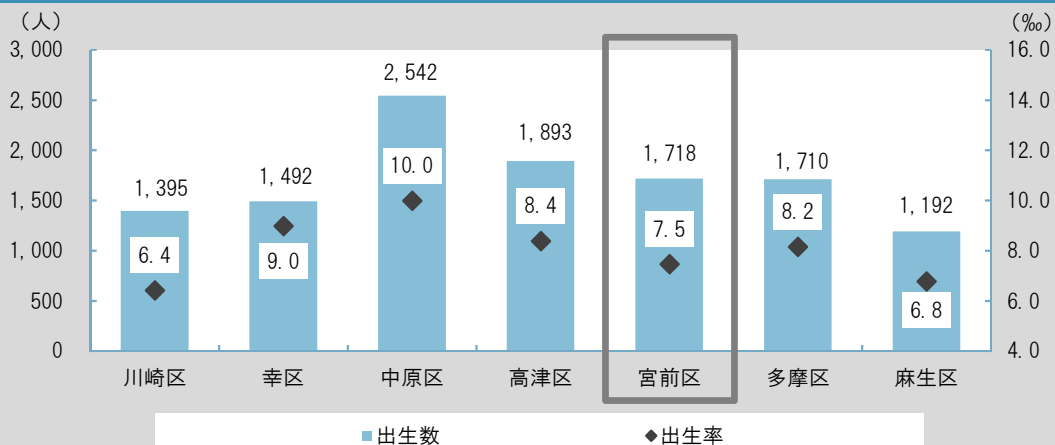
資料：川崎市総務企画局「川崎市総合計画第3期実施計画の策定に向けた将来人口推計（更新版）」（令和4（2022）年2月）

3 出生数・出生率の推移

1) 区別の出生数・出生率

令和3（2021）年の出生数は1,718人で、7区のうち3番目に多くなっています。人口千人あたりの出生数を表す出生率は7.5%（パーミル）で、7区のうち3番目に低くなっています。

市内各区の出生数・出生率（令和3（2021）年）



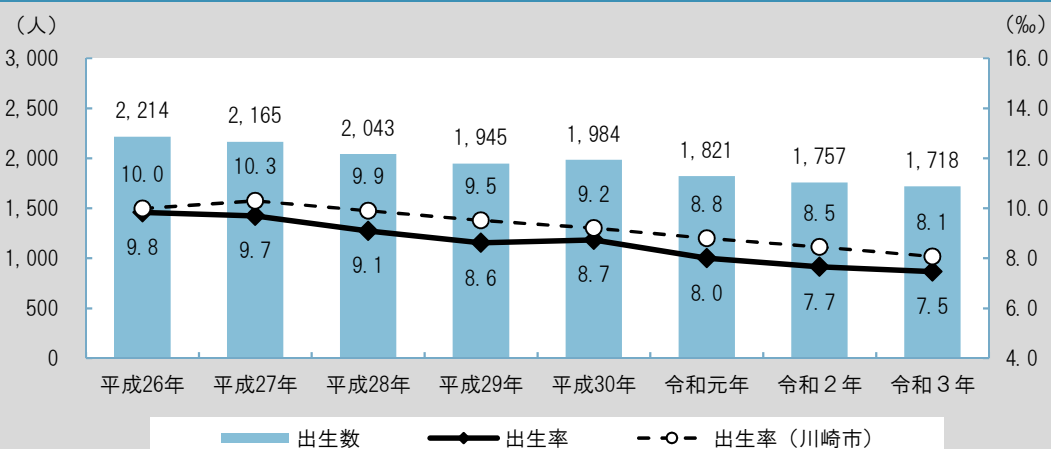
資料：川崎市健康福祉年報 ※%（パーミル）＝千分率（人口千対）

2) 出生数・出生率の推移

宮前区の出生数は、平成29（2017）年に2,000人を割り込み、平成30（2018）年以降は減少が続いています。

また、宮前区の出生率は、川崎市全体よりも低く推移しています。

川崎市・宮前区の出生数・出生率の推移



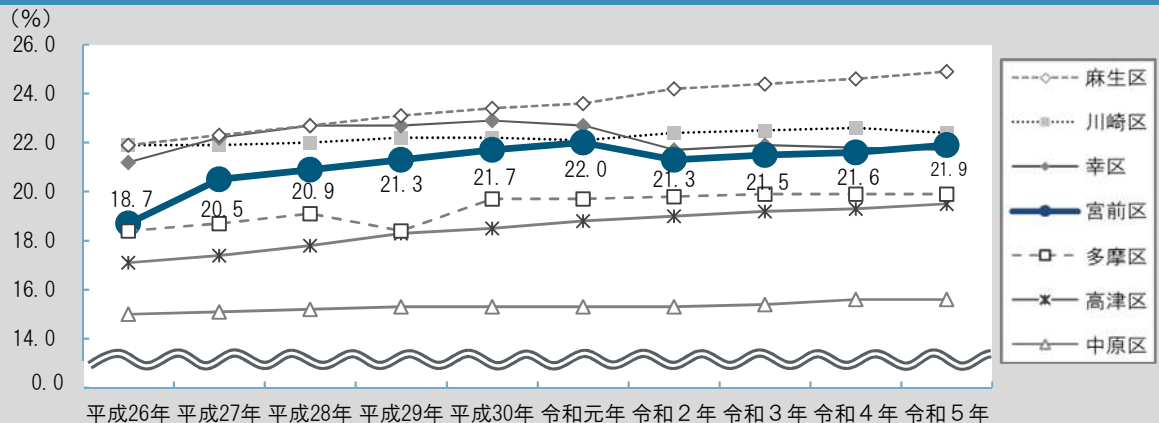
資料：川崎市健康福祉年報 ※%（パーミル）＝千分率（人口千対）

4 高齢者の状況

1) 各区の高齢化率の推移

高齢者人口（65歳以上）が総人口に占める割合を表す高齢化率は、平成27（2015）年以降20%を超えており、令和5（2023）年には21.9%となっています。これは、7区のうち3番目に高いものです。

市内各区の高齢化率の推移



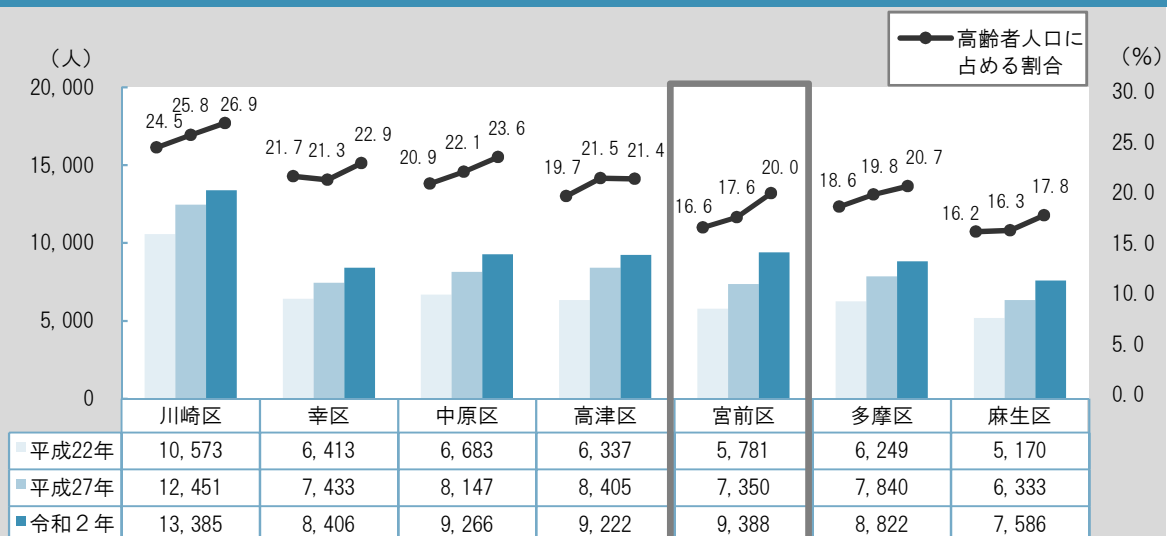
資料：川崎市の統計情報「川崎市年齢別人口」（各年10月1日現在）

2) ひとり暮らし高齢者数と高齢者人口に占める割合の推移

令和2（2020）年の宮前区のひとり暮らし高齢者数は9,388人で、川崎区に次いで多くなっています。平成27（2015）年と比べると、2,038人増加しています。

また、高齢者人口に占めるひとり暮らしの割合は20.0%となっており、7区のうち2番目に低くなっています。ひとり暮らしの割合は上昇傾向が続き、平成27（2015）年から2.4ポイント上昇しています。

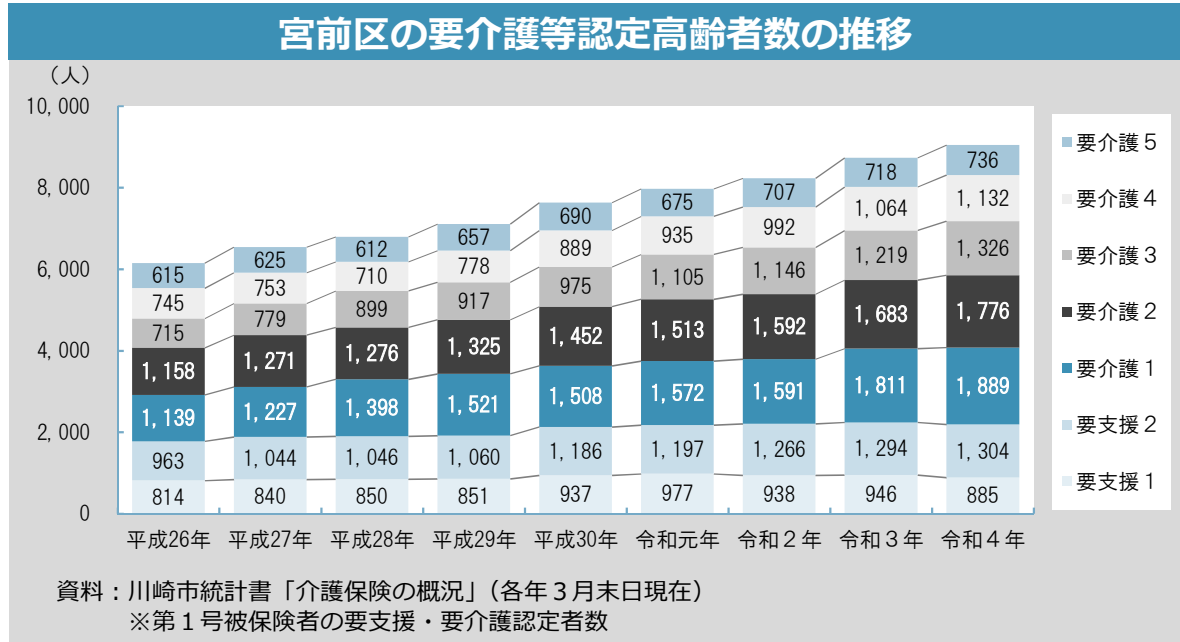
市内各区のひとり暮らし高齢者数と高齢者人口に占める割合の推移



資料：令和2（2020）年国勢調査

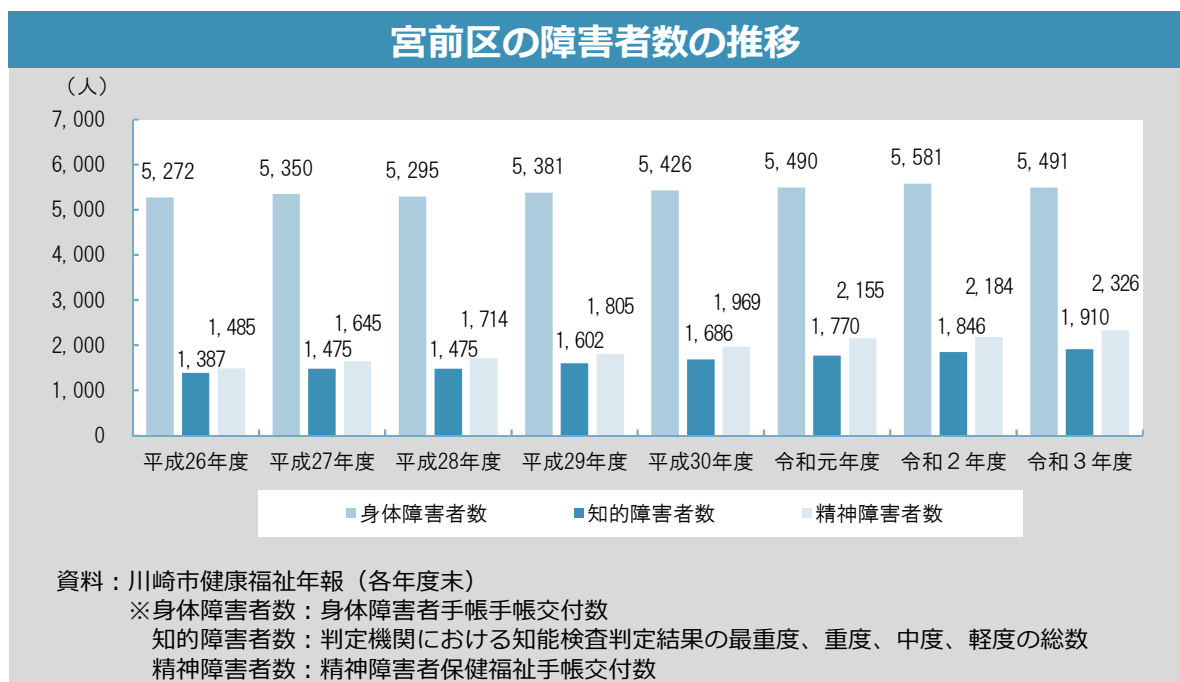
3) 要介護認定者数の推移

介護保険の要支援・要介護認定を受けた高齢者数は増加傾向にあり、令和4（2022）年3月末時点で9,048人となっています。



5 障害者の状況

令和3（2021）年度末で身体障害者数は5,491人、知的障害者数は1,910人、精神障害者数は2,326人となっており、知的障害者数と精神障害者数は増加が続いています。



6 児童虐待相談・通告の状況

令和3（2021）年度の児童虐待相談・通告件数は1,001件で、7区のうち2番目に多くなっています。

市内各区の児童虐待相談・通告件数受付状況

（区役所・児童相談所合計）

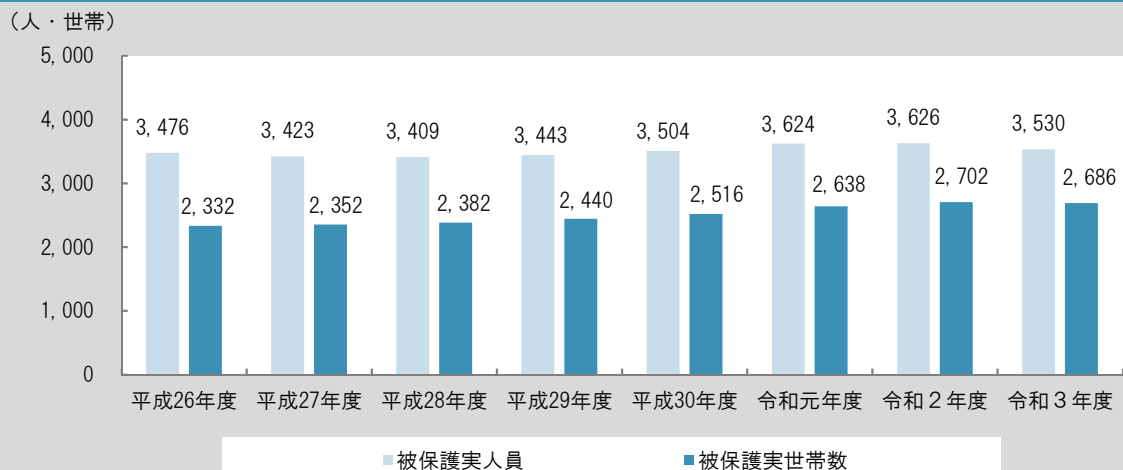
	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	その他	計
平成29年度	758	324	431	518	578	317	318	19	3,263
平成30年度	835	491	560	600	627	541	439	41	4,134
令和元年度	1,031	525	524	670	700	513	515	28	4,506
令和2年度	1,179	619	706	703	940	637	705	68	5,557
令和3年度	1,243	566	732	902	1,001	653	674	61	5,832

資料：川崎市子ども未来局「令和3年度川崎市における児童虐待相談・通告件数について」
※その他は、初期調査により管轄区外に居住していることが確認された件数。

7 生活保護の状況

令和3（2021）年度の被保護実人数は3,530人、被保護実世帯数は2,686世帯となっており、いずれも前年度から減少しています。

宮前区の生活保護被保護実人数と実世帯数の推移

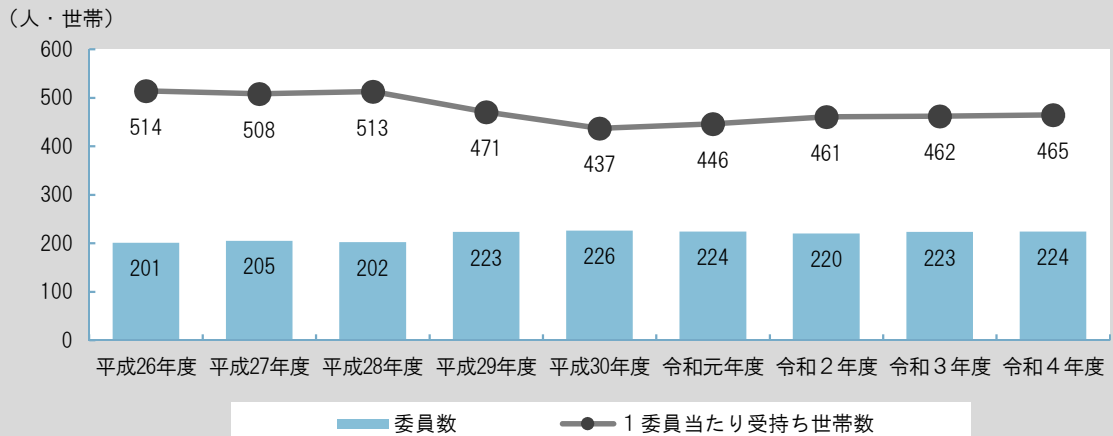


資料：川崎市統計書「生活保護の概況」（各年度月平均）

8 民生委員児童委員数等の状況

令和4（2022）年度の委員数は224人で、1委員当たりの受持ち世帯数は465世帯となっています。

宮前区の民生委員児童委員の1委員当たり受持ち世帯数の推移

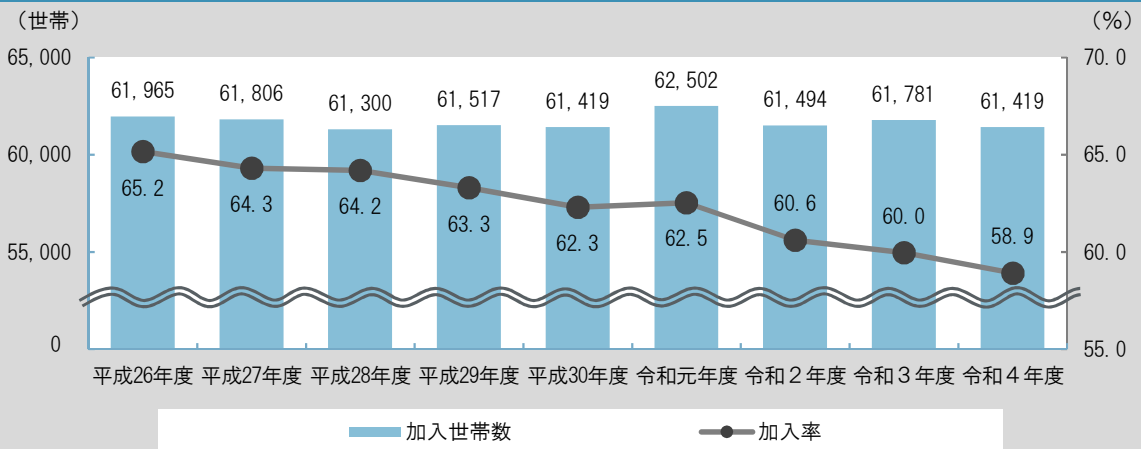


資料：川崎市統計書「民生委員・児童委員の概況」（各年度4月1日現在）

9 町内会・自治会への加入状況

町内会・自治会への加入世帯数は、令和4（2022）年度で61,419世帯となっています。総世帯数からみた加入率は減少しており、令和4（2022）年度は58.9%となっています。

宮前区の町内会・自治会への加入状況の推移



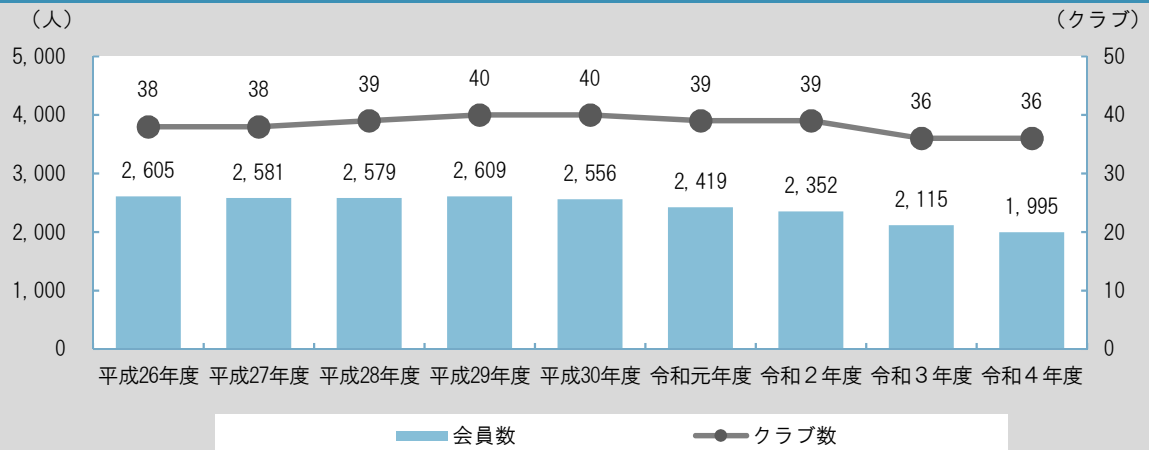
資料：川崎市統計書「住民組織加入状況」（各年度4月1日現在）

10 老人クラブの状況

老人クラブの数は、平成 30（2018）年度から減少し、令和 4（2022）年度は 36 クラブとなっています。

会員数は、平成 29（2018）年度から約 600 人減少し、令和 4（2022）年度は 1,995 人となっています。

宮前区の老人クラブ加入状況の推移

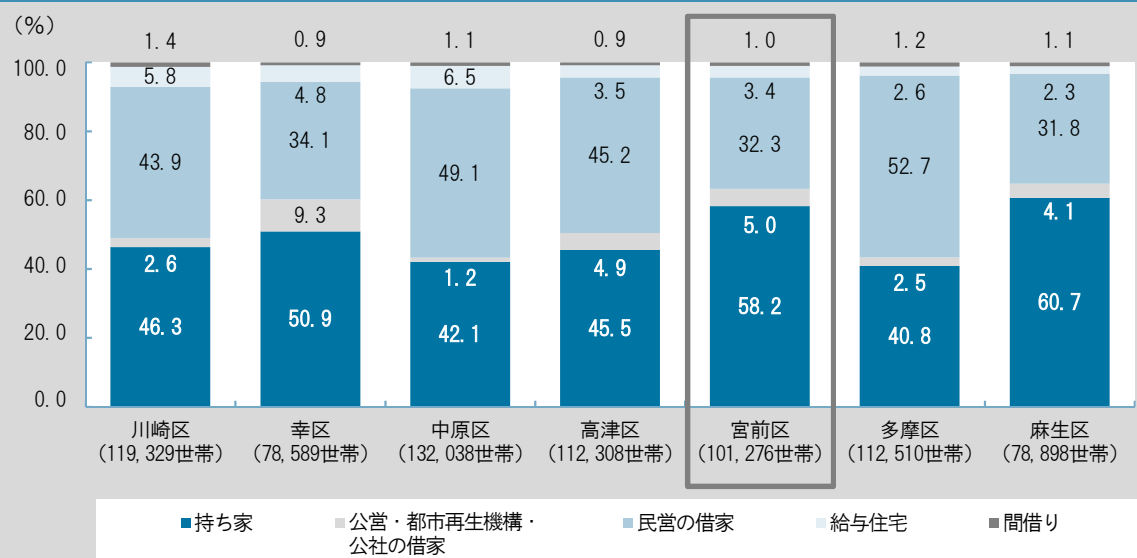


資料：川崎市統計書「老人クラブの状況」（各年度 4 月 1 日現在）

11 住宅の種類

住宅の種類は、持ち家が 58.2%と 7 区のうち 2 番目に高くなっています。また、公営・都市再生機構・公社の借家は 5.0%で、7 区のうち 2 番目に高くなっています。

市内各区の住宅の種類

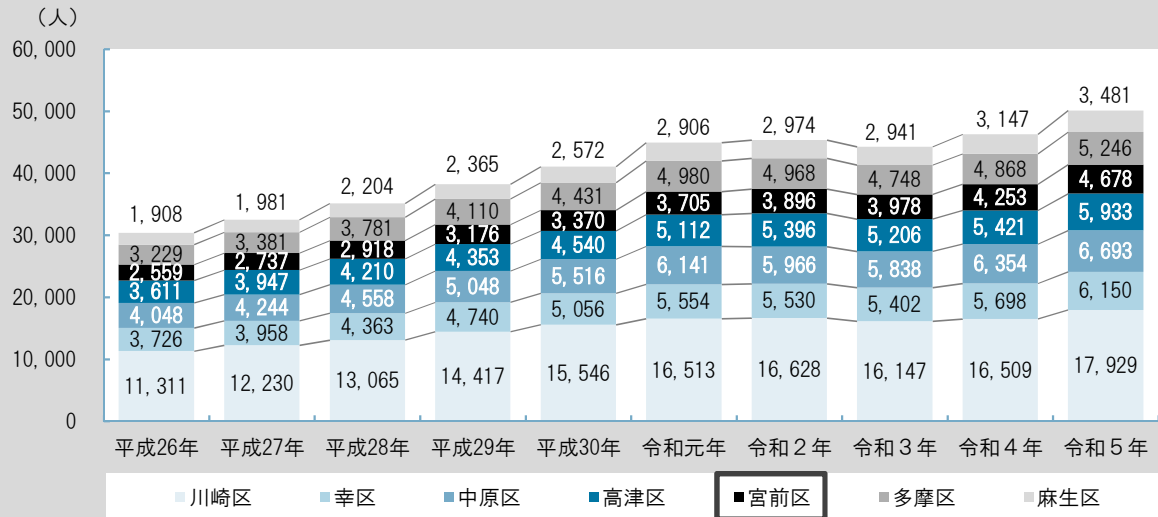


資料：令和 2（2020）年国勢調査

12 外国人住民人口の推移

宮前区の外国人住民人口は増加傾向にあり、令和5（2023）年9月30日現在、4,678人となっています。これは7区のうち2番目に少なく、市全体の9.3%となっています。

市内各区の外国人住民人口の推移



資料：川崎市の統計情報「管区別年齢別外国人住民人口」（各年9月30日現在）